

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 2年 2月 28日

事業所名 放課後等デイサービス れんと

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	40%	40%	20%	勉強スペースや事務スペースが狭い。	部屋の広さは決まっているため、1回で取り組める人数を減らし、場所を確保しつつ順番などのルールを決め、広さを確保するなど検討している。
	2	職員の配置数は適切である	80%	20%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0%	80%	20%	段差が多いが、保護剤などで簡易スロープを設置している。	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	60%	40%	0%	毎月の事業所会議で目標の振り返りや改善点を話し合っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	60%	40%	0%		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	0%	0%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20%	40%	40%		第三者評価の実施は行っていません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	0%	外部への研修参加や研修内容の共有のために5事業所合同で報告会を実施	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60%	40%	0%	アセスメントシートを活用しきれていない。次年度は活用していきたい。	内容の見直しをしつつ、お子さんの状況把握を正しくしていきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	60%	40%	0%	利用者にも聞き取りをし、全職員で考えている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	マンネリ化しないように、新しい活動を取り入れるようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	60%	40%	0%	昼礼などで毎日確認はしているが内容にズレが生じることがある。	口頭でのやり取りだけでなく、視覚的に伝える方法も更に増やしていきたい。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80%	20%	0%	終了時に常勤、非常勤が集まらないため、次の日の昼礼で行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	80%	20%	0%	支援項目に基づいた記録を徹底していきたい。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%	0%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	80%	20%	0%		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	60%	0%	0%	開催時間帯によっては、代表1名しか参加できないので、支援者も参加できるといい。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	80%	20%	0%	下校時間の確認も含め、学校との情報共有をしている。情報のズレが生じるときもある。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	0%	100%	医療的ケアを必要とする利用者がいない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	40%	60%	振り返りや評価シートなど保護者の方から情報を集めるに留まっている。	今後は意識して、事業所との連携を取っていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	60%	20%	対象が小学生のため、中高生を対象とした放デイへの移行時に情報を提供している。	移行先への情報提供が遅れることがあるので、計画的に実施していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	40%	60%	0%	研修を受けることもあるが、保護者を介して助言を受けることもある。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	40%	60%	地域の公園に出かけた際、少しだけ関わることもある。	保護者の方からの要望と照らし合わせながら、交流の機会を考えていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	60%	20%	0%	放課後等デイサービスの連絡会へ毎回参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	日常での変化や出来た事、出来なかった事など詳しく伝えている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20%	60%	20%	相談内容に応じ、提案したり、アドバイスをするようにしている。		

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	80%	20%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	相談された内容を職員で話し合い、直ぐに対応するようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60%	20%	20%	年2回の合同交流会を実施している。	保護者同士の連携を図るため事業所単独での交流会を検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	苦情、要望をいただいた時には、直ちに体制の見直しを図り、全職員で話し合っています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	年4回配布している事業所広報で情報の発信をしている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20%	40%	20%	今後は、地域での行事に参加していきたい。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%	事業所に張り紙で掲示し、呼びかけています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	年2回訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	虐待防止の研修に参加し、内容を全職員で周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	60%	20%	20%		情報の共有が出来ていない職員もいるため、研修などを踏まえて理解を深めていきたいと思っております。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%	0%	保護者からの情報を基に職員全員で確認出来ている。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	毎月開催している事業所会議で話し合いの場を設定している。		